

令和 2 年 9 月 14 日現在

機関番号：23903

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16847

研究課題名(和文)口承文芸と日常言語の地域差・地域性解明のための談話論的・表現法的研究

研究課題名(英文)A Discourse and Expression Analysis of the Regional Characteristics and Regional Differences in Oral Literature and Everyday Language

研究代表者

椎名 渉子 (SHIINA, Shoko)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授

研究者番号：70765685

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、子守歌詞章や日常言語(話しことば)に見られる地域性・多様性を、談話論的・表現法的観点から明らかにし、口承文芸におけることばと、日常言語とのかかわりを探るものである。また、このかかわりが日本語方言学において指摘されてきた地理的変異とどのように関連するのかについて検討した。その際、「1. 子守歌詞章と育児語の地域的特徴・関連性の解明」、「2. 育児場面の言語行動の調査と地域的特徴・関連性の解明」、「3. 子守歌以外の口承文芸のテキストの分析と地域的特徴・関連性の解明」の3つの軸を持っておこなう。その結果、日本語方言学においてこれまで指摘されてきた地理的変異との関連性がいくつかの点で窺えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、子守歌詞章という口承文芸の素材において、日常言語(話しことば)に見られる地域的差異(方言)が見られるのか、見られるとすればどのように存在しているのかというところを明らかにしようとするものである。その際、口承文芸の詞章に見られる語・表現に目を向けるやりかたではなく、話題の伝え方のレベル、詞章構成のレベルからテキストを捉える。また、それが方言学の分野で明らかにされてきた地域差・地域性とどのように関連しているのか。このような考察の視点と手法はこれまでにないものである。

研究成果の概要(英文)：This study elucidates the diversity and regionalism of lullaby lyrics and observes local differences in the everyday usage of language (language behavior) from the perspective of discourse and expression. By analyzing conversations and regional dissimilarities in expressions, the investigation probes the connections between the words used in oral literature and everyday language. Further, the examination explores ways in which this connection relates to regional variations identified by Japanese dialectology. In doing so, the study is conducted on three axes: 1) It clarifies the regional characteristics of and relationships between lullaby lyrics and baby talk; 2) It surveys language behaviors in childcare contexts and elucidates the regional characteristics of and relationships between such behaviors in this usage of language; and 3) It analyzes texts based on orature other than lullabies and illuminates the regional characteristics of and relationships between such texts.

研究分野：日本語学、方言学

キーワード：言語行動 談話論 子守歌 詞章 地域差 育児語 子ども

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

筆者はこれまで、日本の口承文芸の一つである子守歌資料を調査対象とし、談話論的観点・表現法的観点から子守歌詞章を分析し、詞章の構造の把握とそれを構成する要素の出現様相から地域差を明らかにしてきた。その結果、詞章の構造や要素の様々な側面において、東西差や周囲分布の様相を指摘した。また、このような地域差を示すだけでなく、口承文芸の地域差の観察を通してみえる言語学的な分析の意義や可能性を提示してきた。

たとえば、椎名(2005)においては子守歌詞章に出現する子どもに与える内容物の地域差を語レベルで観察し、それらが社会的・文化的背景と関わることを示唆した。また、そうしたレベルだけではなく、表現の単位にも着目し表現法的考察を行った(椎名2014a, 2014bなど)。さらに、談話論的観点から詞章の構造における地域差も指摘した(椎名2007)。これらからは、東日本の東北と西日本の近畿の相違が著しいことが示された。また、談話論的観点から詞章・表現の構造に目を向けると、東北と九州が同傾向を示し、近畿が異なった傾向を示した。一方、表現法的観点から詞章を構成する要素の表現に目を向けると、東西差が目立つ結果となった。つまり、詞章(テキスト)の骨組みは周囲の様相を呈したのに対し、詞章を表現のレベルで観察すると東西差が強く出るといふ二重の地域差の構造を指摘することができた。

そうした地域性は口承文芸という素材のみならず、日常言語とも関連があると考えられる。言語的発想法の地域的傾向と重なる傾向が見出されたことから、口承文芸の地域差を方言学の枠組みから明らかにすることによって、これまで指摘されてこなかった地域差を口承文芸という素材のなかで見出せると考えた。

### [文献]

椎名渉子(2005)「子守歌における『おどし表現』と『甘やかし表現』」『月刊言語』34(5)、大修館書店、pp.82-89

椎名渉子(2007)「子守歌の詞章構造と地域差 - 江戸子守歌を対象として」『国語学研究』46、国語学研究刊行会、pp.45-58、査読有

椎名渉子(2014a)「子守歌詞章におけるほめ表現・けなし表現の地域差 表現類型の計量的・構造的側面に着目して」『国語学研究』53、国語学研究刊行会、pp.76-90、査読有

椎名渉子(2014b)博士論文「子守歌詞章の構造と要素に関する方言学的研究」(東北大学・文学)

### 2. 研究の目的

本研究は、談話論的・表現法的観点からみられた語・表現・テキストの地域差を周囲分布タイプ、東西差タイプなどの地理的分布タイプに分類し、その要因を考察する。また、子守歌詞章の地域差が子守歌という口承文芸の素材独自のものなのか、それとも他の素材にも見出される地域差なのかという点についても考察する。このようにして言語芸術的側面も有する口承文芸と、日常言語との関連性を捉えることによって、そうした言語の「素材」は地域性とどう関わっているのかについて示したい。

### 3. 研究の方法

当初の予定では、口承文芸や言語行動の運用面の地域差を地理的分布のタイプに関して、「(1)子守歌詞章と育児語の地域的特徴・関連性の解明」、「(2)育児場面の言語行動の調査と地域的特徴・関連性の解明」、「(3)子守歌以外の口承文芸のテキストの分析と地域的特徴・関連性の解明」の3点を挙げていた。

(1)では、子守歌詞章における「ネンネン」等の就寝を意味する語・表現の地域差を取り上げ、その地域差を考察した。また、育児語については、全国を対象とした育児語辞典をもとにその地理的分布タイプをまとめているところである。(2)では、東北地方を中心に言語行動調査を行い、育児場面における言語行動、評価にかかわる言語行動について考察した。(3)では、子守歌以外の歌のテキスト分析を行った。成果として公開できるように作業中である。

### 4. 研究成果

本研究において、次の a. ~ e. の傾向が見出された。語形においては周囲分布が見られたことを示した(b.c.)。一方で、表現・談話レベルの分析においては東西差のありかについて考察した(a.d.e.)。

a. 子守歌詞章において、子どもをほめる・けなすといった評価にかかわる表現には東西差が見出された(椎名渉子2017「子守歌詞章における評価に関わる表現の地域差」『方言の研究』3, pp263-289)

b. 子守歌詞章において、子どもをあやす表現(あやし文句)を形態的側面から観察すると、周囲分布が見出された(椎名渉子2017「子守歌詞章におけるあやし表現の形態的・構造的特徴と地域差」『フェリス女学院大学文学部紀要』52, pp1-17)

c. 日常言語における育児語(神仏)の使用の有無には東西差が、語形の分布には周囲分布の様相が見出された(椎名渉子2018「育児語の方言語彙」飛田良文・佐藤武義・小林隆編『方言の語彙 日本語を彩る地域語の世界 (シリーズ日本語の語彙)』, pp75-88, 朝倉書店)

d. 日常言語の評価にかかわる言語行動の地域性には子守歌詞章のほめる・けなすといった評

- 価にかかわる表現と連続的な傾向がありそうなのが窺えた（椎名渉子 2019「非難の言語行動の特徴 要素とその出現傾向の場面差に着目して」東北大学方言研究センター編『生活を支える方言会話 [資料編・分析編]』,pp241-262, ひつじ書房）。
- e. 日常言語のうち評価にかかわる言語行動では非難する際の談話論的・表現法的側面に東西差が見出された（椎名渉子 2018「非難の言語行動の地域差 東北と近畿に着目して」, 東北大学大学院文学研究科言語学シンポジウム, 2018年12月8日開催）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 椎名渉子	4. 巻 3
2. 論文標題 子守歌詞章における評価に関わる表現の地域差 子どもをほめる表現とけなす表現	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 263-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 椎名渉子	4. 巻 52
2. 論文標題 子守歌詞章におけるあやし表現の形態的・構造的特徴と地域差	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 椎名渉子	4. 巻 2
2. 論文標題 評価に関わる言語行動の表現	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化庁委託事業報告 被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開2	6. 最初と最後の頁 74-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 椎名渉子
2. 発表標題 非難の言語行動の地域差 東北と近畿に注目して
3. 学会等名 東北大学文学部大学院文学研究科 言語学シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 小林隆編、志村隆文、新井小枝子、小川俊輔、小林隆、櫛引祐希子、椎名渉子、八木澤亮、作田将三郎、大西拓一郎、半沢康、佐藤高司、大野眞男、竹田晃子、小島聡子、坂喜美佳著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 方言の語彙 方言を彩る地域語の世界（日本語の語彙8）	

1. 著者名 小林隆 川崎めぐみ 澤村美幸 椎名渉子 中西太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 424
3. 書名 方言学の未来をひらく	

1. 著者名 新井小枝子 大西拓一郎 岸江信介 小西いずみ 椎名渉子 津田智史 鳥谷善史 中井精一 日高水穂 福嶋秩子 船木礼子 三井はるみ 村上敬一	4. 発行年 2016年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 新日本語地図	

1. 著者名 東北大学方言研究センター	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 864
3. 書名 生活を伝える方言会話〔資料編・分析編〕 宮城県気仙沼市・名取市方言	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----